

# 「健全で透明な経営」を推進

## ステークホルダーからの信頼の獲得をめざします

### コーポレート・ガバナンス

#### 2006年5月施行の「会社法」に対応して 内部統制基本方針を定めました

日東電工グループは、従来から「オープン・フェア・ベスト」すなわち、「オープンに情報を共有化し、フェアに議論し、決まったことに対してベストを尽くす」ことを行動の原点におき、「健全で透明な経営」を推進しています。

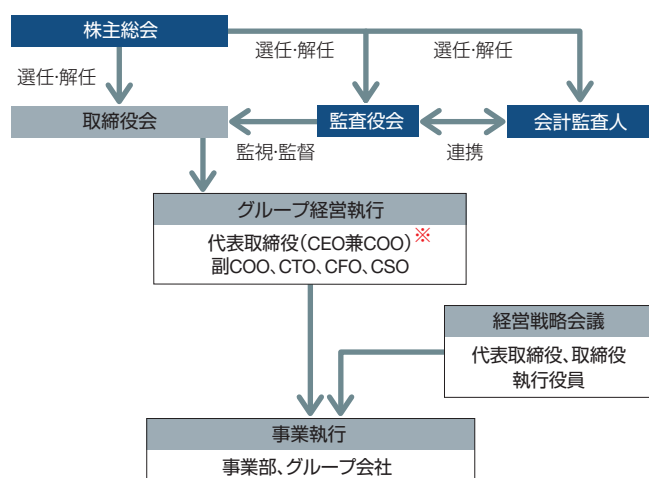
経営の健全性・透明性を高めるため、監査役5名のうち3名を社外監査役にしています。

また、経営環境の変化に的確かつ迅速に対応できる経営体制を確立。取締役の経営責任を明確にするため、2004年度の株主総会決議から、取締役の任期を2年から1年に短縮するとともに、2005年度は5名の取締役で運営しました。

2006年5月施行の「会社法」では、大会社が内部統制システム(取締役の職務執行が法令・定款に適合することなど、会社の業務の適性を確保するための体制)構築の基本方針を決定することを義務づけています。日東電工グループでは、2006年5月に取締役会決議として内部統制基本方針を定め、運用を開始しました。

### コーポレート・ガバナンス体制

経営の監視・事業執行の仕組みを示す模式図は以下の通りです



※ CEO (Chief Executive Officer) : グループ最高経営責任者  
 COO (Chief Operating Officer) : グループ最高経営執行責任者  
 CTO (Chief Technology Officer) : グループ最高技術責任者  
 CFO (Chief Financial Officer) : グループ最高財務責任者  
 CSO (Chief Strategy Officer) : グループ最高経営戦略責任者

### 内部監査 (QES 監査)

#### リスク管理を目的とした、環境・安全・品質の 内部監査を同時に実施しています

日東電工グループは、監査室が実施する業務監査と同様に、専門技術分野の業務監査の位置付けとして2004年度に環境・安全・品質の専任監査組織 (QES 監査部: Quality Environmental Safety Audit Dept) を設置し、内部統制体制の強化を図っています。これまで別々に実施していた環境・安全・品質の内部監査を同時に行うことで、多面的な観点から課題を指摘することが可能になりました。QES 監査では、システムのパフォーマンスの有効性を監査するとともに、環境・安全・品質に関する経営面での潜在的なリスクを抽出し、その削減を図っています。

2004年度下期からスタートした監査は、グループ製造・加工会社を対象に一巡目が終了し、2005年度末には二巡目に入りました。一巡目の監査を分析した結果、現場の管理監督者が日常的に気付くレベルのリスクが多く抽出されたことから、2006年度は拠点の管理監督者の日常パトロールを奨励しています。また、今後も継続し監査前の調査を行い、重点ポイントを明確にし監査の実効性を高めていきます。

環境・安全・品質の維持向上には、専門技術的な面からの対話と気付きによる啓蒙が重要と認識し、さらなる各拠点での内部監査機能の向上や、自己浄化能力の向上をめざした監査を行っていきます。



QES 監査の現場

### 2006年度の年度方針

#### 「信頼され喜ばれる監査でCSRの向上を目指す」

1. モノづくりを中心に環境・安全・品質面で経営リスクの抽出に力点をおく
2. 各拠点の実情にあわせたレベルと頻度で実施
3. 各事業執行体、品質保証部、環境安全部と協業し、課題の共有化と解決のチームティーチングを図る